

子供の学びがつながる授業づくり

～校種間連携のポイント～

第3回
小規模校英語教育研究会（SEESR）
オンラインセミナー
＝2025/2/16＝

釧路市教育委員会
外国語教育アドバイザー

平木 裕

小規模校英語教育研究会 SEESR

～設立趣旨～

研究会HPより

「へき地・小規模校に有効な情報等を提供し、指導助言やセミナーなどを通してへき地・小規模校の良さを生かした教育をサポートすることで、すべての規模の学校で効果的な英語教育が実現できるよう」



- へき地・小規模校における指導等のアドバイス
 - セミナーの開催
 - 学校間の交流等の橋渡し

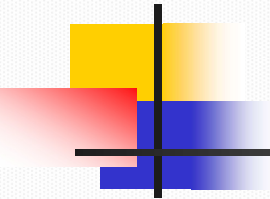
「小規模校」英語教育研究会 ではありますが……

○そのメリットを生かす視点

○そのデメリットを克服する視点

異なる規模の学校
どうしが連携する意味

⇒中規模・大規模の学校にとっても
ヒントになるはず！



学習指導要領総則では…

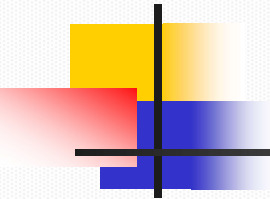
学校段階間の
接続について

（小学校）

…中学校教育及びその後の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。

（中学校）

…小学校教育までの学習の成果が中学校教育に円滑に接続され、義務教育段階の終わりまでに育成することを目指す資質・能力を、生徒が確実に身に付けることができるよう工夫すること。



学習指導要領総則では…

(小学校)

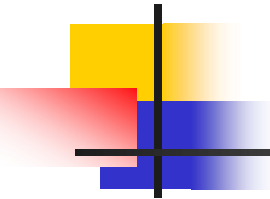
先を見通しながら
バトンを渡す！

…中学校教育及びその後の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。

(中学校)

バトンを受け取り、
これまでを生かす！

…小学校教育までの学習の成果が中学校教育に円滑に接続され、義務教育段階の終わりまでに育成することを目指す資質・能力を、生徒が確実に身に付けることができるよう工夫すること。

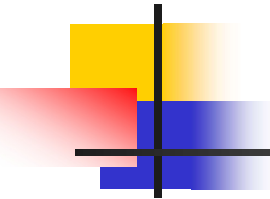


学習指導要領総則(解説)では…

(中学校学習指導要領解説 総則編)

例えば同一中学校区内の小学校と中学校の間の連携を深めるため、次のような工夫が考えられる。

教職員の合同研修会を開催し、地域で育成を目指す資質・能力を検討しながら、各教科等や各学年の指導の在り方を考えるなど、指導の改善を図ること。



学習指導要領総則（解説）では…

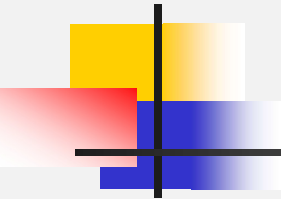
（中学校学習指導要領解説 総則編）

例えば同一中学校区内の小学校と中学校の間の連携を深めるため、次のような工夫が考えられる。

教職員の合同研修会を開催し、地域で育成を目指す資質・能力を検討しながら、各教科等や各学年の指導の在り方を考えるなど、指導の改善を図ること。



子供たちに還元できる連携を！



校種間が

キーワードは「互いを知る」
⇒そのための「連携」！



目標の一貫性

<CAN-DO>

知る・つなげる

学習内容の系統性

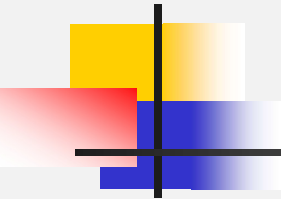
<題材や言語活動>

知る・関連付ける

指導法の継続性

<授業スタイル>

知る・取り入れる



「連携」にもいろいろ・・・

「英語教育実施状況調査」
における分類

- ①情報交換
- ②交流
- ③連携したカリキュラムや学習到達
目標などの設定（とその活用）

「連携」にも

子供の学びがつながる
授業づくりに直結する連携！

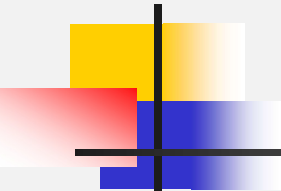
指導の在り方や学習内容の
共通点・相違点を相互に理解すること

連携の最終ゴールはこれ！

①情報交換

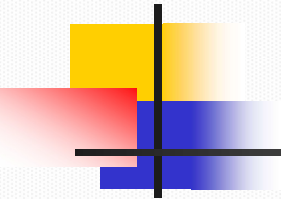
②交流

③連携したカリキュラムや学習到達
目標などの設定(とその活用)



「連携」の実態 (R5 英語教育実施状況調査)

①小-中	74.8%	小中-高	21.7%
②	52.5%		12.8%
③	27.6%		3.8%



「小中連携」とは？

☆直山前視学官は・・・

つながり＋適度な段差！

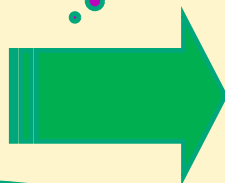
「小中連携」を難しく考えず、これは児童生徒のためのものであり、生徒が「これ、小学校でもやってきたことだ、でも、さすが中学校だな、小学校のときよりも自分ができるようになってきた」と感じられるようにすることが、小中連携のゴールだと思います。

NITSニュース第186号（令和4年2月10日）より

課題解決に向けた「バトンリレー」を！



小学校



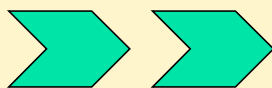
中学校



高等学校

受信すること
への慣れ

「聞く」:
具体的な情報 /
短い話の概要
「話す」:
自分の考えや気
持ちなどを話す /
伝え合う

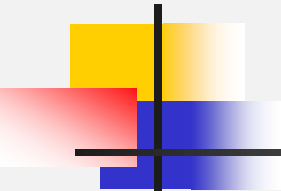


発信すること
への慣れ

R5 全国学調より

＜課題＞

聞いたり読んだりしたこと
について、自分の考えや
その理由を話したり書い
たりして表現すること



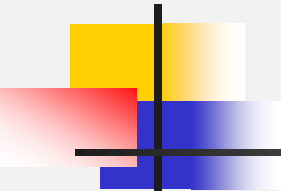
「授業は英語で行うことを基本とする」

「授業スタイル」といえば...

☆中学校学習指導要領(H29)では...

「生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、**授業は英語で行うことを基本とする**。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いるようにすること。」

赤字箇所のねらいや配慮事項は？



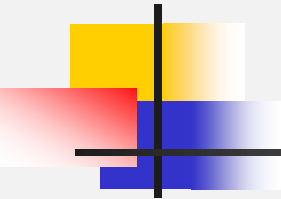
「授業は英語で行うことを基本とする」

☆中学校学習指導要領(H29)では・・・

ねらい

「生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いるようにすること。」

配慮事項



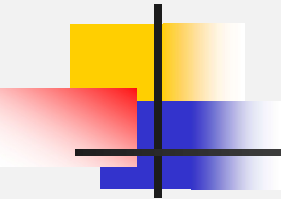
「授業は英語で行うことを基本とする」

<ねらい>

- 生徒が英語に触れる機会を充実する
- 授業を実際のコミュニケーションの場面とする

<配慮事項>

- 生徒の理解の程度に応じた英語を用いる



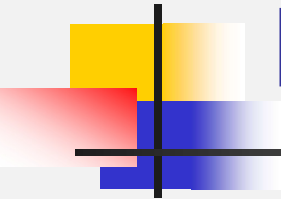
「授業は英語で行うことを基本とする」

☆解説(pp.86-87)では・・・

○**英語による言語活動**を行うことを授業の中心に据える

○**生徒の英語使用**を促す

○「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなど」の言語活動を行うということは、**教師と生徒の間でも英語によるコミュニケーションが当然に行われる**



「英語で行うことを基本とする」授業とは

生徒の英語による言語活動 を中心に展開する授業

言語活動：「実際に英語を使用して互いの
考えや気持ちを伝え合う」などの活動
× 言語材料について理解したり練習したりする活動

要は、英語でコミュニケーションすること！

これこそ小・中・高共通の授業スタイルなのでは!?

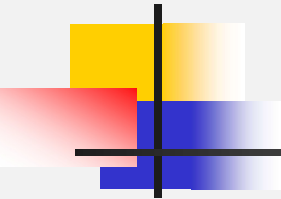
生徒の英語による言語活動 を中心に展開する授業

＜外国語科の目標（小・中・高共通スタンス）＞

「…言語活動を通して…コミュニケーションを図る資質・能力を育成する」



実際に使いながら身に付ける



子供たちの学びは「つながって」いる？

☆全国学力・学習状況調査(R3・R5)より

「英語の勉強は好きですか」

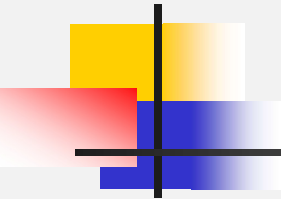
肯定: R3 63.8%(小6) ⇒ 56.9%(中3)



R5 69.2%

⇒ 52.3%

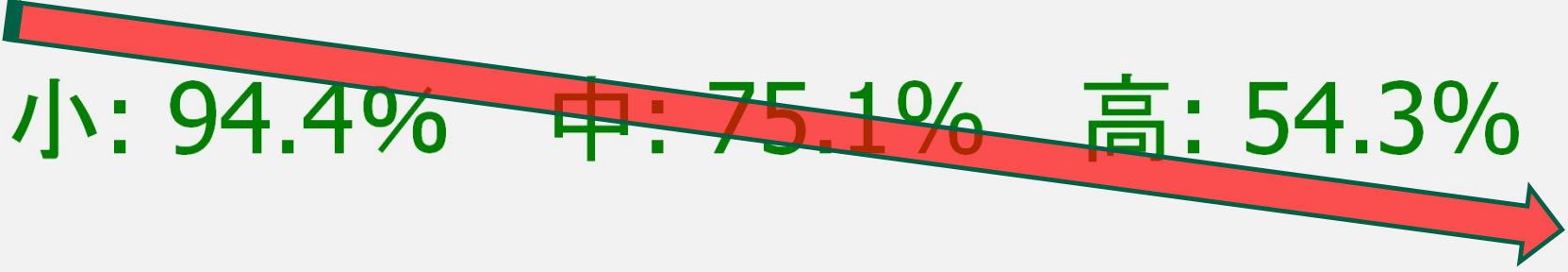
... 「小・中ギャップ」拡大

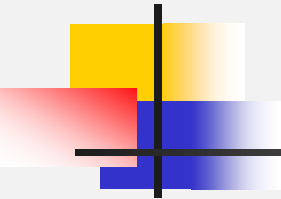


英語教育実施状況調査(R5)

○児童生徒の英語による言語活動の割合
(50%以上75%未満)

小: 94.4% 中: 75.1% 高: 54.3%



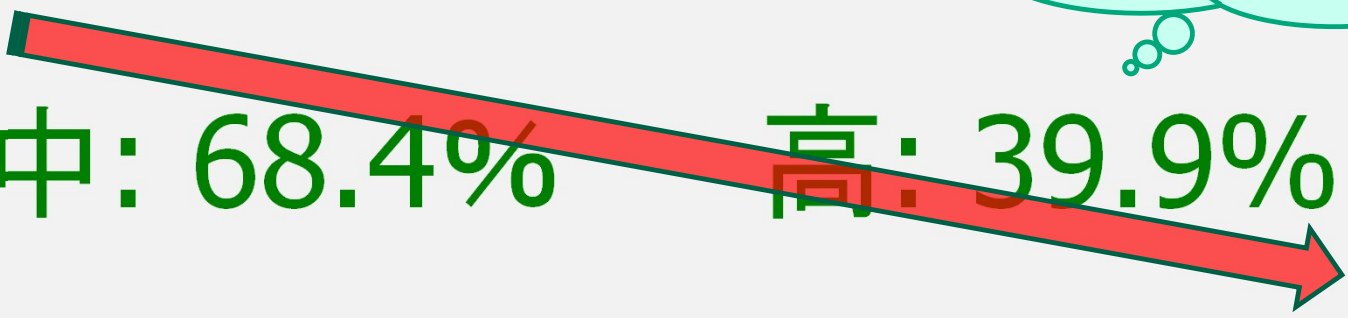


英語教育実施状況調査(R5)

○授業における**教師**の英語使用
(50%以上75%未満)

*Good
"baton pass"?*

中: 68.4% 高: 39.9%



釧路市教育委員会(R4~)による

「小・中ジョイントプロジェクト」の趣旨

中学校区ごとの「小中連携協議会」
が中心となって

「小学校から中学校への円滑な接続を通して
中学校での急激な学力低下を防ぐ」

円滑な小中接続



学力低下の防止

児童生徒のモチベーションを維持！

プロジェクトの一環としての「巡回指導訪問」

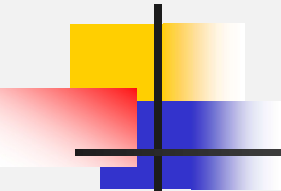
訪問は校種間連携の「場」！

<基本スタンス>

- 中学校区単位での訪問（授業は小・中1本ずつが基本）
- 授業者は相互に参観し，事後交流に参加
- 事後は「協議」でなく「交流」
⇒参加者間の情報・意見交換がメイン



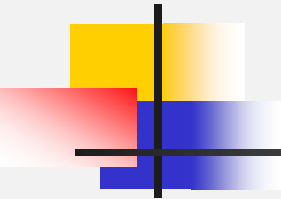
指導・助言は「おまけ」



「巡回指導訪問」R6の新たな取組

- 連携を生かした工夫点を授業の「アピール・ポイント」に
- 中学校：1学期は第1学年 / 小学校：3学期は第6学年
- 年に1回は他校区からの参加を得る（「プチ公開授業」的に）
- 市立〇〇高校も近隣小・中と相互交流を

より「実」のある訪問にアップグレード！



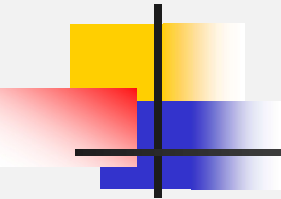
事後の「交流」から得られること

小・中双方の視点や強みをうまく交流

よりよい授業づくりに向けたヒントあり

何より「接続」が話題になる場面多い

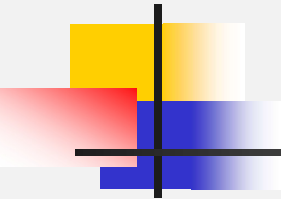
それこそが訪問のめあて！



「交流」でのコメント例①

小・中の「つながり」

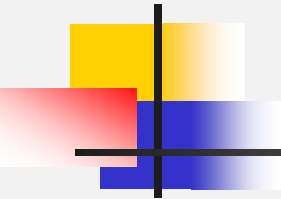
- ・表現として言い慣れていることが**中学校でも**よく口をついて出てくる状況がある。
- ・教師・児童生徒とも英語による発話が豊かに行われていた。それこそが**小中のつながり**になる。
- ・小3の児童でも教師の英語によく反応できており、英語によるコミュニケーションの場となっている。歌で音声になじむなど、耳慣れしていて**中学校につながる**ことを感じた。



「交流」でのコメント例②

相互に授業改善コメント

- ・(中1の授業を参観してみて)小学校5・6年のうちからどのような**積み重ね**をしておけばよいか、考えさせられた。
- ・中学校では生徒どうしでの活動を重視しているが、今日の展開は教師一児童が多く、**もっと児童どうしでの活動を取り入れて**は。
- ・小学校では、「自分のことを伝える」表現が教室に貼ってあったが、そういったものも**中学校で生かせる**のではないか。
- ・小学校でもつなぎ言葉や How about you? 等をやり取りに入れており、**中学校ではもっと(対話の)バリエーションを増やしてもよかった**。



最近の取組事例

校区のClassroomを活用

<小学校>

〇〇中学校の英語科の先生方にお願ひがあります。6年生のUnit 8で、添付ファイル1枚目のような目的・場面・状況で単元を進めていきたいと考えております。この単元の導入で、中学校の先生方からのビデオメッセージを放映し、相手意識を高めるとともに、中学校の英語の先生を知る機会にしていきたいです。つきましては、添付ファイル2枚目の項目（アドリブ也大歓迎です）でビデオメッセージを撮り、提出していただきたいです。

お忙しいところ、ありがとうございます！授業で使わせていただきます。

<中学校>

ロイロの方がうまくいったのですが、ロイロは先生のところに送れなかったもので、下手くそなやつを送ります。なんかテキトーでごめんなさい。

(平木からも)

△△小&〇〇中のコラボ、昨年度に続いて素敵ですね！ 6年生の子供たちが目をキラキラ輝かせてビデオレターを見つめる姿、期待しています。
◇◇先生、ご協力ありがとうございました♪

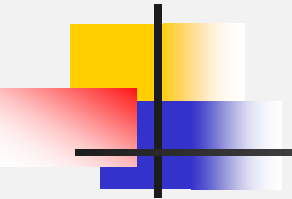
<小学校>

〇〇中学校の英語科の先生方にお願ひがあります。6年生のUnit 8で、添付ファイル1枚目のような目的・場面・状況で単元を進めていきたいと考えております。この単元の導入で、中学校の先生方からのビデオメッセージを放映し、相手意識を高めるとともに、中学校の英語の先生を知る機会にしていきたいです。つきましては、添付ファイル2枚目の項目(アドリブ也大歓迎です)でビデオメッセージを撮り、提出していただきたいです。

お忙しいところ、ありがとうございます！授業で使わせていただきます。

<中学校>

ロイロの方がうまくいったのですが、ロイロは先生のところに送れなかったもので、下手くそなやつを送ります。なんかテキトーでごめんなさい。



「英語に関するアンケート」

※R4から釧路市立学校の小5～高3全児童生徒対象に実施(5月+1月)

☆「校種間連携」を考える上で注目している質問項目

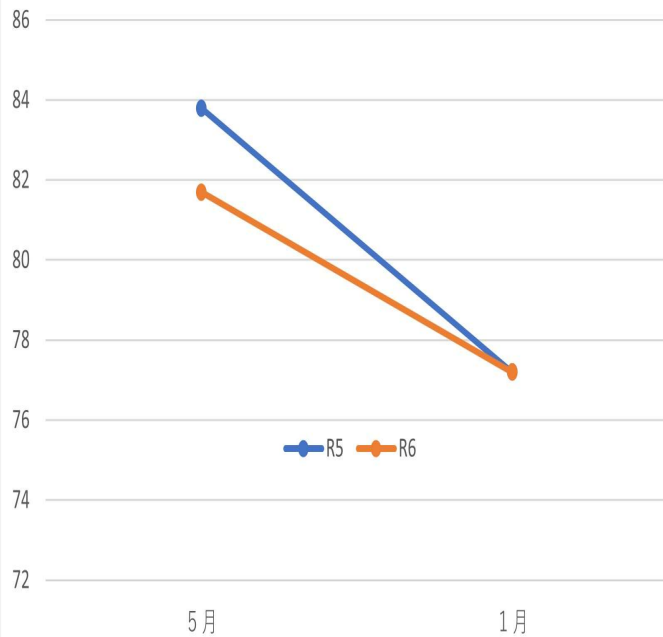
- 「英語の授業は楽しい」
- 「授業では、積極的に英語を使っている」
- 「英語を使って、いろいろな人とコミュニケーションをしたい」

いづれにおいても、児童生徒の声は
教師の授業づくりが左右するはず！

中1の1年間における下降具合(R5→R6変化)

この項目の改善は大きな注目点！
(数値そのものが上昇+ほぼ下降なし)

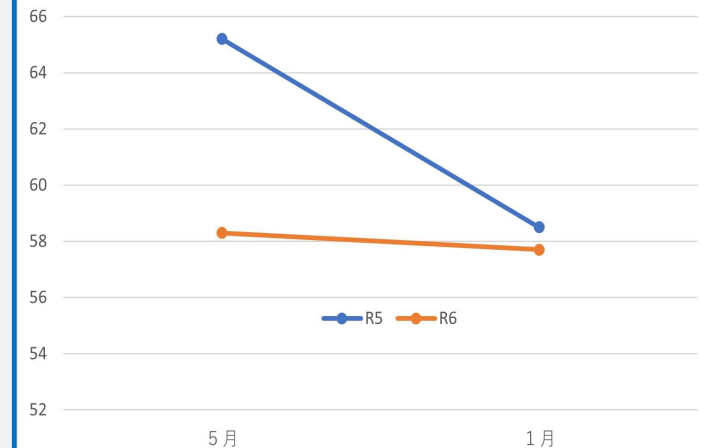
授業は楽しい (R5→R6)



授業で積極的に英語を使っている (R5→R6)

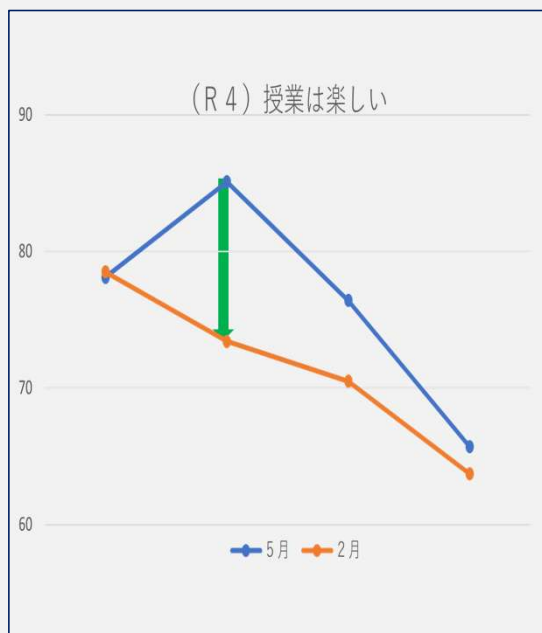


いろいろな人とコミュニケーションしたい (R5→R6)



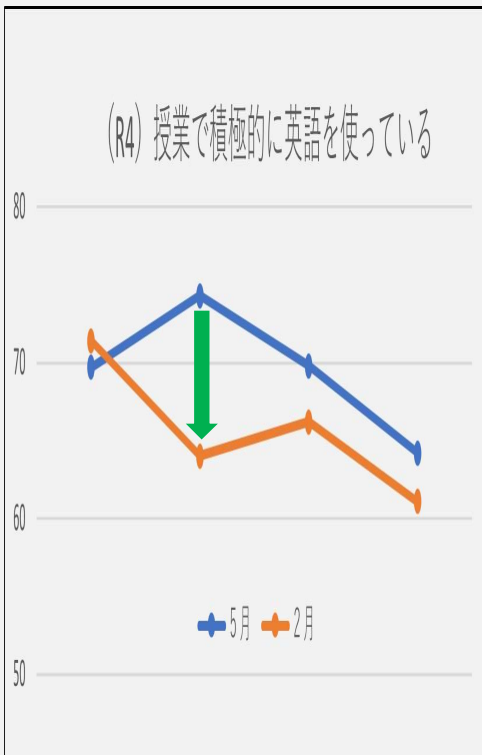
モチベーションの落ち込みが緩和
(「中1ギャップ」やや解消!?)

「授業は楽しい」を中学校中心に見てみると・・・

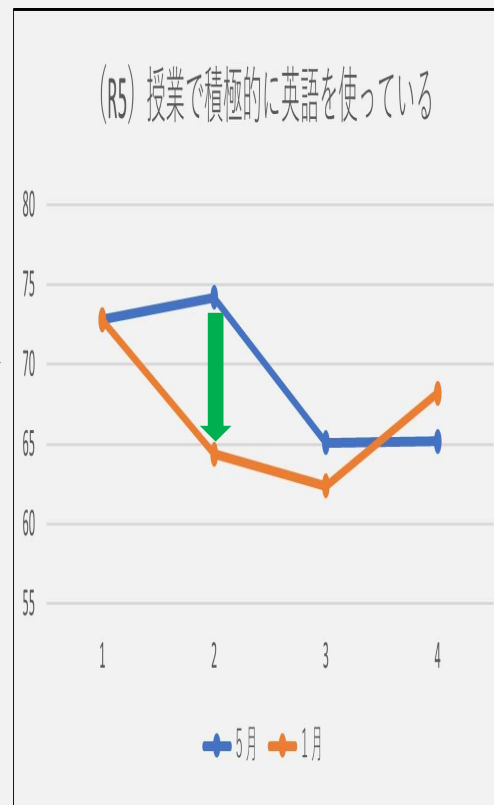


「授業では積極的に英語を使っている」だと・・・

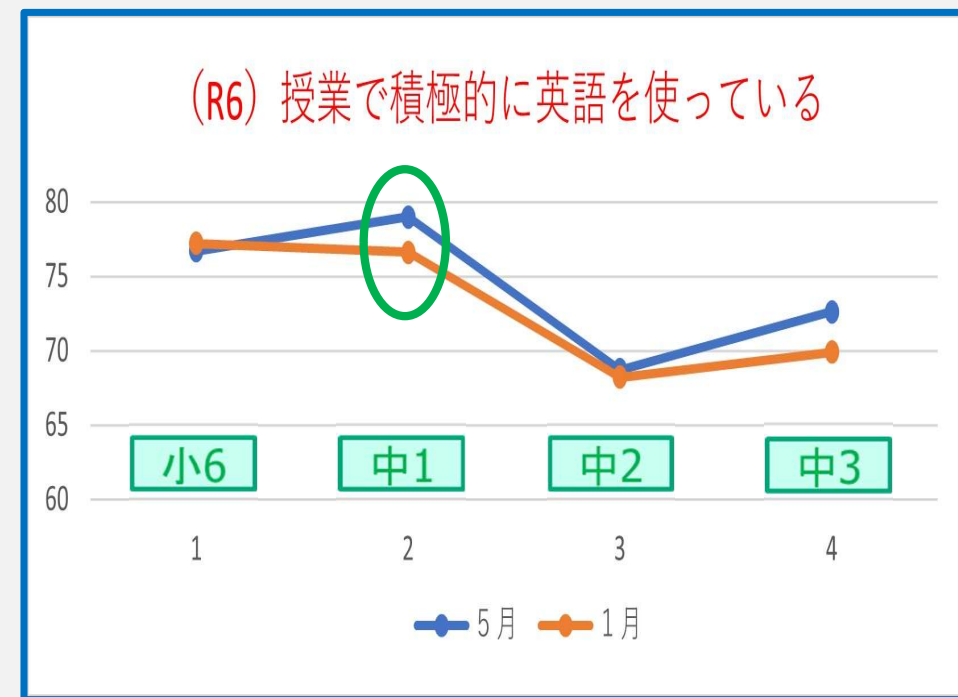
(R4) 授業で積極的に英語を使っている



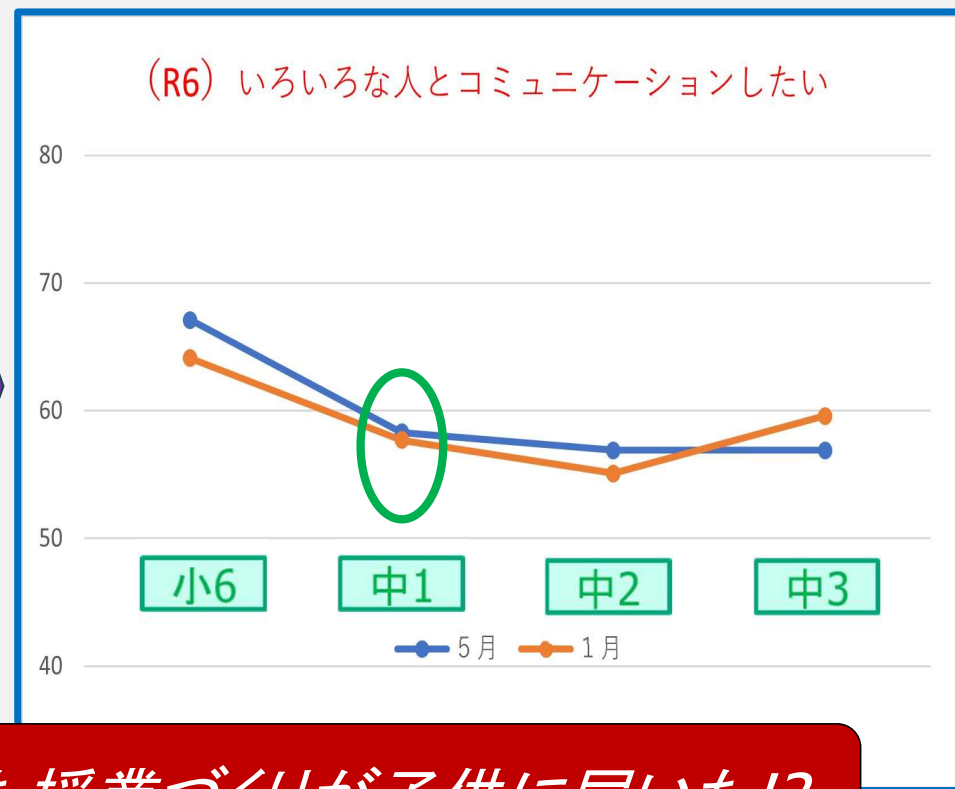
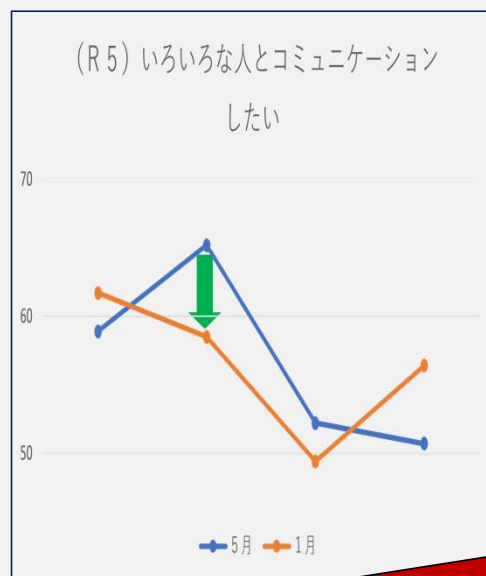
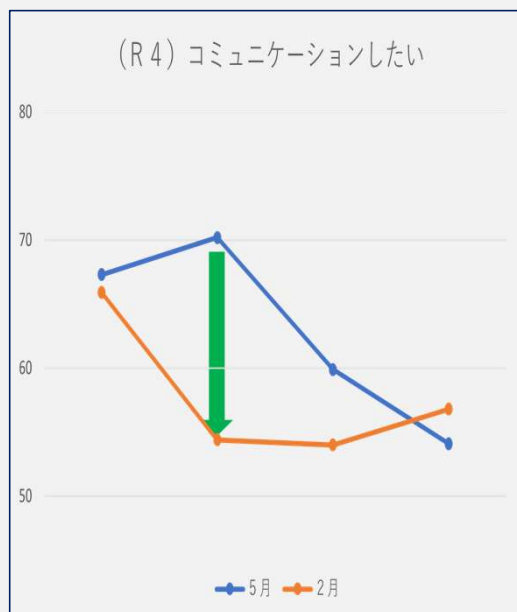
(R5) 授業で積極的に英語を使っている



(R6) 授業で積極的に英語を使っている



「いろいろな人とコミュニケーションしたい」だと・・・



小学校からの接続を意識した授業づくりが子供に届いた!?

釧路市における取組の詳細は・・・

英語教育協議会 (ELEC) HPで！

R4年度末時点

「新教育課程における外国語科の授業づくり
～釧路市の実態から考えられること～」

https://www.elec.or.jp/research_report/4788



釧路市における取組の詳細は・・・

英語教育協議会 (ELEC) HPで！

連携を始めた頃の小⇔中相互コメント例

(例)

＜中学校教師から小学校の授業に対して＞

- ・英語で活動が進むためのルーチンができていて、ステップを踏んで無理なく活動が展開できていること、英語での指示がシンプルで明確であること、説明よりも活動を行うことが重視されていること、などが参考になった。

- ・小6でここまで過去形を使ってコミュニケーションできる児童の姿に感謝の気持ちを抱き、これを引き継ぐ中学校ではどのようにすべきかを考えさせられた。

- ・ALTが言ったことを教師が日本語に言い直していた場面があったが、児童は理解していたのでそのままでも伝わったのではないか。

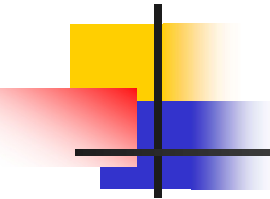
＜小学校教師から中学校の授業に対して＞

- ・小学校で扱った単語が中学校でもどんどん出てくるのが分かり、小学校でしっかり触れさせておく必要を感じた。

- ・教師の表情やジェスチャーがよく、生徒と英語でのコミュニケーションを楽しむ姿や生徒が粘り強く話そうとする姿に感銘を受けた。自分もしっかり英語を継続的に使いたいしそれが小中の連携になるはず。

- ・振り返りは、「今日のゴール」に照らして（具体的な「～することができる」の視点で）「できたかどうか」を振り返らせるとよいのでは。





「小規模校」「連携」に関わる資料

「小中一貫した教育課程の編成・実施等に関する事例集 ー第2版ー」

（文部科学省，R4）

＜義務教育学校の事例＞

ほうりゅう

石川県珠洲市立宝立小中学校

全校児童生徒 71人(R3時点)

＜教育課程の特徴＞

- 特例：「**きらり英語科**」(第1・2学年で各10時間の国際理解教育)
- 教科担任制：第2・4・5・6学年で後期課程教員が担当
(該当教科＝社・理・家・美・音・体)
- 学力に課題のある生徒へのきめ細かな指導：
前期課程教員がT2として支援 ※R3は数学で実施
- 多様な教員や価値観との出会い：**道徳での乗り入れ**

＝小規模校のメリット＝
異学年の交流を図りやすく、
一人一人の児童生徒にきめ細かい指導がしやすい

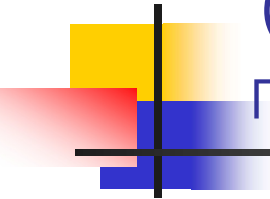
<教育課程の特徴>

- 特例：「きらり英」
 - 全職員が全校児童生徒と授業で関わる
 - 学校全体で児童生徒を育成する教職員の意識
- 教科担任制：第1～5学年
(該当教科＝社・理・家・美・音・休)

義務教育学校においてさえ！

☆課題は・・・

両課程の指導の連続性を図るための指導の一貫性の確立等



(参考)小規模校のメリット・課題①

「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」(文部科学省)より

【一般に小規模校に存在するとされる**メリット**】

- ① 一人一人の学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい
- ② 意見や感想を発表できる機会が多くなる
- ③ 様々な活動において、一人一人がリーダーを務める機会が多くなる
- ④ 複式学級においては、教師が複数の学年間を行き来する間、児童生徒が相互に学び合う活動を充実させることができる
- ⑤ 運動場や体育館、特別教室などが余裕をもって使える
- ⑥ 教材・教具などを一人一人に行き渡らせやすい。例えば、I C T機器や高価な機材でも比較的少ない支出で全員分の整備が可能である
- ⑦ 異年齢の学習活動を組みやすい、体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる
- ⑧ 地域の協力が得られやすいため、郷土の教育資源を最大限に生かした教育活動が展開しやすい
- ⑨ 児童生徒の家庭の状況、地域の教育環境などが把握しやすいため、保護者や地域と連携した効果的な生徒指導ができる

(参考)小規模校のメリット・課題①

「公立小学校」

中規模・大規模校でも必要なこと
⇒どうすればできる？小規模校に学べ！

【一般に小規模校に存在するとされるメリット】

- ① 一人一人の学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい
- ② 意見や感想を発表できる機会が多くなる
- ③ 様々な活動において、一人一人がリーダーを務める機会が多くなる
- ④ 複式学級においては、教師が複数の学年間を行き来する間、児童生徒が相互に学び合う活動を充実させることができる
- ⑤ 運動場や体育館、特別教室などが余裕をもって使える
- ⑥ 教材・教具などを一人一人に行き渡らせやすい。例えば、I C T機器や高価な機材でも比較的少ない支出で全員分の整備が可能である
- ⑦ 異年齢の学習活動を組みやすい、体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる
- ⑧ 地域の協力が得られやすいため、郷土の教育資源を最大限に生かした教育活動が展開しやすい
- ⑨ 児童生徒の家庭の状況、地域の教育環境などが把握しやすいため、保護者や地域と連携した効果的な生徒指導ができる

(参考)小規模校のメリット・課題②

「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」(文部科学省)より

【一般に、学級数が少ないことによる生じうる学校運営上の課題】

- ① クラス替えが全部又は一部の学年でできない
- ② クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない
- ③ 加配なしには、習熟度別指導などクラスの枠を超えた多様な指導形態がとりにくい
- ④ クラブ活動や部活動の種類が限定される
- ⑤ 運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が下がる
- ⑥ 男女比の偏りが生じやすい
- ⑦ 上級生・下級生間のコミュニケーションが少なくなる、学習や進路選択の模範となる先輩の数が少なくなる
- ⑧ 体育科の球技や音楽科の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる
- ⑨ 班活動やグループ分けに制約が生じる
- ⑩ 協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じる
- ⑪ 教科等が得意な子供の考えにクラス全体が引っ張られがちとなる
- ⑫ 生徒指導上課題がある子供の問題行動にクラス全体が大きく影響を受ける
- ⑬ 児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる
- ⑭ 教員と児童生徒との心理的な距離が近くなりすぎる

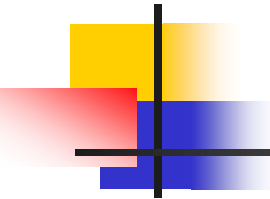
(参考)小規模校のメリット・課題②

「公立小学校・中学校」

工夫の仕方は規模を越えて情報交換！

【一般に、学級数が少ないことによる生じうる学校運営上の課題】

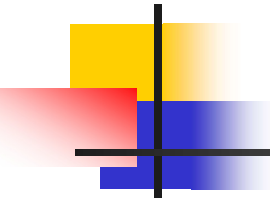
- ① クラス替えが全部又は一部の学年でできない
- ② クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない
- ③ 加配なしには、習熟度別指導などクラスの枠を超えた多様な指導形態がとりにくい
- ④ クラブ活動や部活動の種類が限定される
- ⑤ 運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が下がる
- ⑥ 男女比の偏りが生じやすい
- ⑦ 上級生・下級生間のコミュニケーションが少なくなる、学習や進路選択の模範となる先輩の数が少なくなる
- ⑧ 体育科の球技や音楽科の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる
- ⑨ 班活動やグループ分けに制約が生じる
- ⑩ 協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じる
- ⑪ 教科等が得意な子供の考えにクラス全体が引っ張られがちとなる
- ⑫ 生徒指導上課題がある子供の問題行動にクラス全体が大きく影響を受ける
- ⑬ 児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる
- ⑭ 教員と児童生徒との心理的な距離が近くなりすぎる



子供の「学びがつながる」ために

- まずは**校内で学年間・教科間**のつながりを(カリマネ)
- 小・中間は特に「**小6⇒中1**」の接点を焦点化・具体化
- いつでも**気軽につながれる**環境・人間関係を
- 同一校区内の**小・小連携**も(同じ単元の授業参観等)

○学年間・校種間の指導の連続性・一貫性の確立！
○「ギャップ」ではなく、適度な「段差」のある9年間に！



子供の「学びがつながる」ために

- 教職員への声掛け，理解の共有は管理職から
 - いかに連携の「**必要感**」「**有用感**」を持たせるか
 - ポイントの一つは教師**自身の授業力**向上
 - 一人一人がいつでも連携に関われる**雰囲気**づくり

○まずは「その気」になってもらうこと！

○参加してよかった，という「余韻」も大事！
(また「わざわざ」行きたい，という気持ちに)